第３回びわ環サークル活動報告　（平成 27 年 2 月 20 日）

表題	竹炭作り	日時	平成 27 年 2 月 19 日(木)　10:00～15:00　天候：時雨、強風
参加者	事務局：青木豊明　(写真係、記) 35 期生：冨田、太田、初田 36 期生：丸林、服部、青木和夫 37 期生：藤岡		

1.　第 3 回活動の経緯

第 2 回活動（ロケットストーブ作り、開催:平成 26 年 11 月 28 日）の後(アンケート調査で 3 カ月に一度の活動の希望多数)､次回の 2 月の活動案をメールでサークル員に尋ねたが､提案が無かった。そこで寒い季節柄、炭焼き作りを予定した。

（補足 ： 現在、日本では冬季の熱利用として、一般的には電気を使っている。火力発電として石炭や天然ガスを燃やし電気を作るが、そのエネルギー効率は最高で 40%程度で、残り 60%は捨てている。また、作った電気を熱に変えるのに効率 40%程度で、最終的に 84%のエネルギーを捨てている。もったいない!ドイツ、オーストリアでは、コージェネ・熱も利用する熱電併給が進んでいる。日本は後進国。世界でも有数の森林国の日本は蒔、炭の熱の直接的な有効使用を進める必要がある。）

2.　活動場所と講師

近江舞子の雄松崎にあるカフェ「ほとりポトリ」で生育旺盛な竹から炭を作るイベントがあり、第 3 回活動をここで催した。「ほとりポトリ」横の炭焼ドラム缶窯で竹を材料に竹炭を作成した。

カフェ「ほとりポトリ」： http://waku-waku.org/hotori-potori/cafe/

講師は一般社団法人南太平洋協会の松村賢治氏で、若い時にヨットで世界一周をしておられる。お歳は 70 歳代前半。ヨットを通じてパプアニューギニアと関係を築き、現在、当地で炭焼き方法の指導をしながら、大阪で建築設計会社を運営し、且つ広島県山県郡太田町で「Biso　A　Miss」という会社を設立している。この会社は「田舎暮らしトレーニングセンター」のコンセプトで色々な事業をおこなっている(37 期藤岡氏記より)。

南太平洋協会　： http:// aspa-osaka.com

3.　竹炭作成過程と活動経過

写真 1.　竹伐り

写真 2.　ドラム缶窯に竹(長さ 40-50cm)入れ

写真 3. 横置きドラム缶を覆う

写真 4. 窯口のみ、点火

写真 5. 煙突から水蒸気

写真 6. 窯口閉じる

写真 7. 煙突閉じる

写真 8. 内湖と比良山系　(昼休み)

写真 9. 松村講師(右奥、座っている方)の話

写真 10. 竹炭出し

写真 11. 琵琶湖・松林背景の竹炭と集合写真

概要

・10:00 竹を長さ 40-50cm に伐り、半分に割る。それらを横置きのドラム缶(上側が長方形に開けてある)に入れる。その後、蓋をして、粘土で覆い、その上に砂を置く。
・10:45 ドラム缶窯口付近で点火する。内部の竹の水蒸気が煙突から出て、白い。これがほぼ出つくして、煙が青く透明になると、ドラム缶窯口付近での蒔を燃やすのを止める。
・11:45 ドラム缶窯口を粘土で閉じる。すこし煙突から白い煙が出て、おさまる。
・12:15 煙突を濡れぞうきんで覆い、その上から重石板を置く。蒸し焼き状態。
・昼食。青木和夫さんと服部さんの二台のロケットストーブで湯を沸かし、焼芋を作る。各自弁当。
・13:00 松村講師の様々な活動の話を聞く。
・14:00-14:45 びわ環サークル員で話し合い。
・14:45-15;15 竹炭出しをして、琵琶湖の松林を背景に集合写真を撮り、解散。

4. 今後のびわ環サークルの活動予定

前回のびわ環サークル活動の際、冨田さんから湖東の山林でのプロジェクトの提案があった。それについての説明がなされた。その活動は地域連携でおこなうこと。ログハウスを建てる材木は、当地の間伐材を使用。ログハウスの基礎には、コンクリートなど更地に戻りにくい物は使わない。また、そのプロジェクトの資金、体制をどのようにするか。以上を考えるため、まず春に現地を見学することになった。その冨田さんからの提案を、まず、びわ環サークル各期で話し合っていただくことになった。

次回の第 4 回びわ環サークル活動は、3 ヶ月後の 5 月に予定しております。高島市新旭の風車村近くの、エコ施設の見学です。ここでは日本で取り組みが遅れている地中熱利用を早い時期からおこなっています。 (地中熱利用:世界中の陸地 5m 深さでは地熱も地下水も 15℃とほぼ一定です。そのため冬は暖房に、夏は冷房に自然の熱を利用できます。ヨーロッパでは進んでいます。
地中熱利用促進協会 : http://www.geohpaj.org/introduction/index1/types)

筆者(事務局)の希望としては、皆様に様々なエコ活動を知ってもらい、広げて行ってもらいたいと思っております。何か提案があればお知らせください。(メール : t0215ak@gmail.com)